



ワークステーションをコアに IT システムを仮設 人材育成の現場で生きる、実稼働環境を簡易に構築

株式会社 KSK アナリティクス

目的

- 教育プログラム環境構築のシンプル化
- 教育プログラムの効率化

アプローチ

- ワークステーションをサーバとして活用
- ワークステーション上に仮想環境を構築
- 多様なプログラムへの即時対応

システムの効果

- ワークステーション上の仮想空間にシステムを構築
- スナップショットでクライアントや個別環境を保存・呼び出し
- 自社所有の簡易システムの構築で柔軟に対応

ビジネスへの効果

- 従来のレンタルフィーと比較しコスト削減が可能に
- 担当者への負担激減
- システム構築時間の大幅な低減

ビッグデータ活用を模索している企業が増える中、これらを IT システム上で実際に動かすことができる人材育成が急務となっている。株式会社 KSK アナリティクスは古くから BA/BI 事業に精通していたこともあり、同社が実施する分析教育プログラム等のトレーニングサービスは開催毎に満席となるほど活況だ。トレーニングの現場では HP Workstation シリーズを活用、大きな功績をあげているという。同社に話を伺ったので紹介しよう。



株式会社 KSK アナリティクス
ビジネステクノロジー本部
ロフェッショナルサービス G
奈良一毅氏

ビッグデータを効果的に 活用するために

株式会社 KSK アナリティクス（以降、KSK）は、OSS 分析ツールのローカライズや導入サポートや活用支援を行うビジネステクノロジー事業と、統計や機械学習を活用したデータ解析コンサルティングや分析教育プログラムの提供をメインとするデータサイエンス事業で、業界をリードする企業だ。

同社ではベンダーとしての BA・BI・分析処理基盤のパッケージ製品のローカライズや販売、導入支援を行う一方で、起業当時から蓄積されてきたビッグデータ活用へのノウハウを活かして、データ解析コンサルティングや分析教育プログラムの提供などをメインとしたデータサイエンス事業にも力を入れている。「ビッグデータの分析に必要な知識を持った人材を育成するため、各ソフトウェアに合わせたトレーニングを用意しています。規模はリクエストをいただいた企業によって増減しますが、数名から数十名単位によるセミナー形式で開催します」と語るのは、会場の設置やトレーニングのサポートを行う機会が多い奈良氏だ。

同社のトレーニングでは、個別の分析ツールを題材に、実際に企業が使っている BI システムを動かしている。いわば、実稼働状態の IT システムを動かしながらの実践的なトレーニングだ。「実際と同じ環境を使っただけのトレーニングだからこそ、ツールの挙動やレスポンスを感じ

ながら学んでもらえるからです」と奈良氏は語る。

実施に当たっては、サーバやクライアント PC、ネットワーク機器なども実際に用いるわけだが、トレーニングのための環境づくりを開催毎におこなうのは容易なことではない。「これまででは高性能なレンタル PC をトレーニング会場へ持ち込み、都度のセットアップをおこなっていました。時間と手間がかかる作業でしたね」と、当手を振り返る奈良氏。

さらに近年では、同社のトレーニングサービスは大変な好評で毎週のように開催されている。「単日コースから 2 日コース、5 日コースと様々で、会場もお客様企業にお近くの貸し会議室など、ニーズに合わせて設定します。頻度が増すごとに会場設営への負荷も増えてしまうのが難点でした」と語る奈良氏。そこで KSK はトレーニングサービスの会場設営負荷軽減へ向けて取り組みが開始された。

サーバ機能を丸ごと出張設営

頻度が増すごとに人的負荷とコストが掛かるこれまでの方法を刷新すべく、KSK がたどり着いた方法は大胆なものだった。「サーバとクライアント PC を丸ごと一式作ってしまい、それを開催地へ持っていき展開する方法です」と語る奈良氏。シンプルな解決策ゆえ、効果は絶大になる。「システムはあらかじめインストールし



スタッフとトレーニングメニューについて打ち合わせをする奈良氏



テスト稼働中のHP Z840 Workstation。カリキュラムごとにスナップショットを反映させるなど、仮想化環境を当てはめていくことで、均一なサービスが可能となった



KSKのトレーニング実施システムイメージ



今後も成長するBA・AI市場へ向け、万全の態勢で臨むKSKと奈良氏

たままにしておけますし、あとは会場へ持っていき、ケーブル類を挿すだけです。しかし、それだけでは不足なのです」と奈良氏はいう。

例えば、会場によってはサーバが講師の近くに置かれるケースもある。少しの騒音であっても、連日続くトレーニングでは耳障りになってくることもしばしばなのだという。「トレーニングといっても学習と同じですから、できれば静かな環境が好ましいのです。サーバとしてきっちり稼働するスペックに加え、静音性に優れたコンピューターは無いか。いくつか試したところ、HP Workstation シリーズが最適であることが分かってきました」と奈良氏は語る。

数々の試行錯誤を繰り返した後、同社が出した回答は HP Z840 Workstation をサーバとして活用したシステムだった。「Z840クラスになると、スペック的にはまったく問題ありません。数百、数千人規模のシステム構築ではないのでサーバ専用マシンである必要はないのです。それでも負荷の高い処理は発生しますので、ファンは高速回転している時間帯はあると思いますが、今思い返してもうさかったという記憶はないですね」と笑顔で語る奈良氏。

システムとしては、Z840に複数の仮想マシンを稼働させ、デスクトップ画面をネットワークで転送してトレーニングする手法を採用。「クライアントも仮想化しているので、受講生の数に合わせてスナップショットで増減できます」と奈良氏は語る。

このような環境をシステム上で稼働させるのは、まさに Z840 が得意とする分野だけに、より小回りを効かせたい同社のニーズに、まさにベストマッチだったといえる。

高い信頼性に期待

「Z840 を会場へ持っていき、席数分のノートPCをつなげます。ネットワークが必要な場合はWi-Fi環境も持っていくのですが、これまでは

高性能なレンタルPCをトレーニング会場へ持ち込み、都度のセットアップをおこなっていた時期に比べると、設営の苦勞はとてもの少ないですね」と、導入の手応えを語る奈良氏。

これまでの会場設営に比べて、レンタル費用や人的負担、設営時間を考慮すれば、大幅な負荷軽減につながっているという。「実運用では、これから実力を発揮してもらわないといけないと思っています。テスト環境での稼働や実証期間の挙動を見る限り、まったく問題なく動いているので信頼には十分応えてくれると確信しています」と奈良氏は語る。

こうしたトレーニングを予定通り進めるには、ハードウェアコンポーネントに可用性が求められる。「連続して5日開催ともなると、ハードウェアは酷使することになりますが、今のところ不具合や不安を感じたこともありません。こうした信頼性の高さもHP製品を選んだ理由の一つでもあるので、とても頼もしく感じています」と奈良氏は笑顔で語る。

KSKのトレーニングサービスでの運用は始まったばかりだが、今後ますます需要は高まると同社は見ている。「BA・BI向けのトレーニングサービスは大変好評です。日本全体がビッグデータへの認識が高くなってきたことに加え、これまで他人事のように感じていた業種の方々も必要性を感じてきたことが背景にあると感じています。これから、増々ニーズが高まる分野だと思っています」と最後に奈良氏は語ってくれた。

KSKのBA・BI向けのトレーニングサービスを支えるHP Z840 Workstation。都度の機器の手配とシステム構築から解放された同社は、講義に集中できる体制が整った。これから活況を迎えていくジャンルへの取り組みだけに、HP Z840 Workstationへの期待も増していくだろう。HPも全力でKSKを応援していく予定だ。



記事を共有する

